講　　演

第22卷第10號　昭和11年10月

土木工学用語集の發刊成るまで

（昭和11年7月8日土木学會談話會に於て）

會員　工学博士　中　川　吉　造*

On the Publication of the Civil Engineering Vocabulary

By Kitizo Nakagawa, Dr. Eng., Member.

この度土木工学用語集といふものが出來ましたに付て，その經過とその結果の概略をお話し申上げることに致します。

皆様に既に差上げたことゝ存じまするが，タイプライターで打ちましたものに用語調査會の經過の概略を書いて置きました。それからもう一つ，小さい本を差上げましたが，是は不日学會の方で豫約募集をすることに付て，皆様の所へも參る事になつて居りますが，今日お話を致しますに付て，この小さいパンフレットがありますれば非常に便宜と思ひまして只今差上げた次第であります。用語集といふものは字書の一種であらうと考へるのであります。尤も百科辭典のやうなものでありますれば，そこに寫眞もあり，地図もあり，又は極彩色を施した図面もあり，御覽になるだけでも非常に面白いことゝ思ひます，又字書にしましてもウェブスターの大辭書のやうなものでありますと，澤山な図面も入つて居りますし，又その言葉の語源等もありまして，それを御覽になりましても非常に面白いことゝ存じます。然るに普通の字書丁度用語集も之に類するものであらうと思ひますが，之は至つて味も香もないものと思ひます，併し同じ無味無臭でありましても空氣のやうなものであり，或は水のやうなものであつて人生には極めて必要なるものであると斯う考へたいのであります，何れに致しましても，此の用語集は8箇年の年月を經まして，此の度漸く出來上りましたのでありまして此の間歷代の會長，副會長，役員諸君，又用語調査會に關係された委員諸君並に幹事諸君の非常なる御努力と御盡力に依りましたことは，私幹事長と致しまして實に感謝に堪へない次第でありまして，この點は厚くお禮を申上げます。尙用語が出來ました都度々々に會誌に發表致しまして，會員諸君からも絶大の御聲援を得ましたことに付きましても，厚く御禮を申上げます。

それでは是から簡單にお話を申上げます。出來ました用語集といふのは結果から先きに御話致しますが，大体此の見本の樣なものであります（實物見本を示す）。之を製本致しますと，厚さも大きさもこの程度になります。この本の大きさは日本標準規格のA列の6號で，菊判の約半截位になるのであります。さうしてこの頁數は本文が約500頁で，それに索引が200頁兩方合せて700頁のものであります，この見本にもあります通りに，出來ましたこの用語集は，本文が日本語でアイウエオ順に出來て居りまして，それに英語，獨語，佛語の三つが對照されて居るのであります。それから最後の200頁のインデックスが大変値打のあるものではないかと考へるのであります。それは英語，佛語，獨語と無論別々に致しまして，さうして此の3箇國語を別々にアルハベットの順に列べてあるのであります。今英獨佛語の或る字の意義を知らうと思はれるとき，インデックスを御覽になれば本文の何

---

* 本會前會長　土木学會用語調査會幹事長

頁何所にあるといふことが書いてありますから，本文の日本語の所を見ますれば分ることになるのであります。此の 200 頁のインデックスは本学會と致しましては非常に努力，勉强をして附けたつもりでありまして，英，獨，佛語の意義を調べられるといふことに非常に役立つことだらうと考へます。

それから本文の日本語のことに付て申し上げますが，是は2頁の下に(內容見本を示す)「部門別」と書いてございます。(1) が応用力学，(2) が水理といふやうに 16 部門に分けて排列してあるのであります。

今土木学會の用語調査會が出來ました當時の樣子，外の学會がどういふ程度の用語集，或は術語集といふものを作られたか，或は作られつゝあつたかといふことに付て一言申上げます。

御承知の通りに，我土木の用語集と致しまして，大学の先生方がお作りになりました英和工学字彙といふものがあります，此は英和語の對譯でありまして獨り土木の用語だけではなしに，機械，電氣等他の学科の語もありますし，又往々普通の言葉でありましても，度々土木の方に出る言葉が書いてあるやうであります。

機械学會では矢張り土木学會が用語集を始めました頃に折角編纂中でありまして，それが昭和5年に5箇年を要して出來上つたのでありますが，本の名は「機械工学術語集」となつて居ります．そこに書いてありますのは日本語と，英語が對照的に書いてあるだけでありまして無論定義等はないのであります。衞生工業協會では「衞生工学術語集」といふのをお作りになつたのであります。是が昭和9年に出來上つて居りまして，之に要しました年數が7年9箇月になつて居ります。さうして之に附いて居る外國語は英語ばかりであります。又日本鑛業會の「鑛業術語集」は矢張り3箇年を要してお作りになつたのでありますが，是も英語ばかりであります。日本鑄物協會は現在作りつゝあるやうであります。工業化学會では，前に既に一度お作りになつたのでありますが，その後再版に3箇年を要し昭和9年に出來上りました。この術語集は英獨和，獨英和，和英獨，つまり日本語と英語と獨逸語の對照であります。又建築学會では50周年記念事業として約7箇年を要し去年の2月に出來たのであります。この內容は定義といふよりも解釋といふ方が近いだらうと思ひますものを書いてあるのでありますが解釋も何も書いてない對譯丈のものが相當あるのであります。さうして外國語は無論英語でありまして，それに獨逸語が折々入つて居るのであります。火兵学會では 2 箇年を要して昭和 5 年に出來ましたが，英獨和，獨英和，和獨英で，日本語と英，獨語の對譯であります。又「船舶工学術語集」是は造船協會でお作りになつたので，昨今は多分第二版を調製中だと考へますが，初版は矢張り8箇年を要して作られたのであります。それには外國語は英語だけであります。日本鉄鋼協會，之が2箇年半を要されまして，英語だけであります。一寸外國のことになりますが，御承知のザ アメリカン パブリック ヘルス アッソシエーション とザ アメリカン ソサイテイ オブ シビル エンジニヤースの聯合委員會で定義付の用語集を作るのに 1915 年から 1928 年に至る 14 箇年を要したといふことであります。斯ふいふやうに用語集の仕事といふのは，どこの学會でもなかなか苦勞をされて居るのでありまして，矢張り相當の年月を要してゐるのであります。我土木学會では昭和3年に始めまして，昨今漸く出來上つたのでありまして，約8箇年を要したのであります。

土木学會の用語集が外の学會の用語集に比較しまして，異つて居る點卽異彩のあります點は英，佛，獨3箇國の言葉が入つて居る點と各語に付いて一々定義を附けてある點であります。出來上りました本文 500 頁の總語數は，2 209 語，之を 16 部門に平均しますと 136 語になるのであります。其內最小數は水理の 50語，最多數は材料及施工の 261 語であります。それからこの字書にもう一つ特に申上げなければならぬことは，熔接に關する言葉が入つて居るのであります。御承知の通り熔接のことは近來非常に發達し又非常に研究されて居るのでありまして，重要なる言葉35語が橋梁及構造物といふ部門の中に入つて居るのであります。尙海の波に關する事柄が特に水理

の部門の中に入つて居り又航路標識及びドック等に關する言葉は，港灣の部門の中に入つて居るのであります。

大体他の学會の用語集は斯ういふ程度でありますし，土木学會で編纂しました用語集は，大体是位の大きさで内容は斯ういふものだといふことをお話した積りであります。

序に一言申し上げます。16 部門に別けて色々調査を進めて行つたのでありますが，一番最終になつて之を纏めまするのに非常に骨が折れたのであります。16 部門の總語數は 2 209 でありまするが，その中で各部門に共通して居ると言ひますか，兩方に出て來る言葉が相當澤山出來たのであります。即ち部門別に調査を進めて行つたのでありますが，愈々最後の取纏めになりまして，鉄道にもある言葉がある，又河川の方にもある，又水力電氣にもあるといふ工合に，あつちこつちに同じ言葉が出て居るのであります。無論同じ語でありましてもその意味が違ひまするものは鉄道では斯ういふ意味だ，河川では斯ういふ意味だといふことでありまして，是は問題はないのでありますけれども，同じ所に使ふ同じやうな意味の言葉で鉄道，河川，水力等に於て多少其の譯語及定義の異つて居るものあることを知つたのであります。これでは面白くないと考へまして，之を調べたのであります。さういふことを調べまする爲に 2 200 の言葉に對してカードを 1 萬枚作つたのであります。カードには一々言葉が書いてあるのでありますから，之を英語は英語，佛語は佛語で纏めて見ましたが各部門が相當に混雜して居るのであります。之を纏めることになりまして，分科會を設け幹事諸君に又分擔をお願ひ致しました。さうして鉄道の方，河川の方水力電氣の方，其の他關係の方々だけが一つの分科會を設けて相談をすることになり 4 つの分科會に分け，各幹事が丸る數日を要して同じ譯語，同じ定義を附けたのであります。これは非常に面倒な仕事でありまして，獨り關係幹事諸君に格別の御努力を御願したのみならず今夕茲にお出での五十嵐君，糸川君，中川君其の他數名の方に御願して稍々纏つたのであります。

次に調査會の經過に付て極く簡單にお話し申上げます。

この經過の方は，差し上げました刷り物を御覽下さいますと大体分るのでありますが，一番初め昭和 3 年 3 月の編輯委員會で土木工学用語集を作らうぢやないかといふ話がありまして，5 月の役員會で用語調査會を設け大学，内務省，鉄道省，東京市等から準備委員をお願ひしたのでありまして，準備委員に於て，委員の方々を決定御願ひしたのであります。その委員の數が 106 名で，その中幹事の數が 21 名になつて居ります。この 21 名には當時編輯委員であられたところの方々が皆入つて居るのでありまして，編輯の方も無論初めは用語の方へ出來るだけお願ひするつもりでありましたが，編輯事務が非常にお忙しいが爲に，その後編輯委員の方を別と致しまして委員幹事を 2 回に 5 名と 3 名をお願ひしたのであります。現在の委員の數は 150 名，その中幹事の方が 50 名になつて居ります。今申しました通りに編輯委員の方が幹事にお願ひする慣例になつて居つた關係上，それらの方がこの 50 名の中に入つて居るのであります。それで最初にこの用語の調査を進めて行くには，委員 106 名，その中幹事 21 名，その幹事に於て原案的のものを調べて貰らふぢやないかといふことになつたのでありまして，昭和 3 年 10 月 19 日に第 1 回の幹事會を開いて居ります。その第 1 回に色々相談をしまして，之を部門に分ち，その部門々々に幹事を決めてお願ひすることになつたのでありまして，その部門は 16 部門でありますが，最初の時には水理と云ふ部門はなく一般土木なる部門があつて 16 部門であつたのでありまして，後に至り一般土木を止め水理が入りまして，部門の數は矢張り 16 になつたのであります。

第 1 回の幹事會に於て 16 部門に分けることになり各部門毎に幹事をお願ひし各幹事に於て原案を作成することになつたのであります。ところが先づ第一に用語の事を進めて行くには，先づ以て術語を選定しなければならないから，各部門毎に約 100 位宛の術語（英語）を選定する事にしたのであります。そうして幹事一同が同一の

歩調で選定することが必要だと思ひまして，第 1 回，第 2 回の幹事會は出來るだけ澤山の方に御出席をお願ひし，擔當幹事は必ず御出席下さつたのであります。 初め 100 の術語を一度に選定するといふ譯には行きませんから，10 なり 20 なり出來た丈のものを持寄つてその語はどうも面白くないから止めやうぢやないか，この言葉は必要だから入れようぢやないかといふ工合に選定して行つたのであります。 初め英語の用語を選定して，その後之に對する獨逸語，佛蘭西語を當篏めたのであります。 術語の選定が或程度進みました時に定義の相談をしたのであります．之がなかなかむづかしい問題でありまして，之はどうしても一同が相談をし，一同の意見を持寄りまして，成るべく一樣に定義をしたいといふ考で用語の選定が一部分終ると同時に，至急定義に對する相談をしたのであります。 昭和 4 年 4 月第 8 回目の幹事會に於て初めて當時の幹事中桐君が測量の言葉 7 語に付定義を作つて持つて來られたのであります。その 7 語の定義を相談決定するに午後 5 時より 9 時半迄一晩を要したのであります。

玆で一寸申上げますが，昭和 3 年この會を始めまして，今日用語集が出來上りますまでに，委員幹事の中で 7 人の方が亡くなつて居られるのであります。 それは井上範君，山田陽清君，池田圓男君，中桐春太郎君，石井來太郎君，來島良亮君，那須章彌君，この 7 人の方が，今日迄に物故されたのであります。 この 7 人の方々に對しては特に哀悼の意を表するものでありまして，愈々用語集が出來上り，製本を終りましたら，この 7 人の方々の靈前に是非御供をし御報告を致したいと考へて居る次第であります。

前述べました樣にして段々進んで行つたのでありますが，一方では選定用語のことを相談し，一方では定義のことを相談し，又出來るだけ早く一部だけの用語定義を拵へまして委員諸君の御意見を伺つたのであります。 此の委員意見に對して，又幹事會に於て相談をして見たのであります。といふのは前申しました通りに總べて幹事會なりで拵へまするものは，皆一同寄つて拵へるものではなく各部門毎の擔當幹事に於て作るのでありますから，成るべく總べての事柄が同一歩調に出たいといふ積りでやつたのであります。 此の定義のことに付て特に申上げたいのは，御承知の通り定義といふものは冗長であつてはいかぬ。 さうかと言つて餘り短くて意味が通じなくても困る。定義は簡單にして明瞭であるといふことが第一の要點であらうと思ひます。 外の学會のことを申しては濟みませんが外の学會のものには定義的には出來て居りませんで，解釋的に出來て居りますから，之を作るのは餘程樂だらうと思ふのであります。 兎に角土木学會で定義を作るに就て幹事諸君は非常に苦心をされたのであります。或る幹事の話では昨晩一晩或る一つの言葉の定義を考へて見たけれども，とても駄目だつた。 その後段々慣れて，初めに定義が出ないものは後に廻すことにしたといふ話もあつた。 兎に角一つの言葉の定義を作るのに少し長い時は 3 時間も 4 時間もかゝるのであります。 少くとも一つの言葉には 1 時間や 1 時間半はかゝつたらうと思ひます。 初めに用語の選定をするにも相當の時間を要し其の定義を作るに澤山の時間を要する等幹事諸君の御努力は實に大いなるものであつたのであります。

斯樣に致しまして第 16 回，即ち昭和 4 年 11 月まで進んで來たのでありますが，それまでには定義のことに付て一同に於て相談する，それから委員の意見を得たものに付て相談をする，此時になつて最早幹事諸君が大体精粗一樣の考をお持ちになつたやうに考へ，又幹事諸君もさう言はれたのであります。 又從來通りにやつて居りましては非常に多大の時間を要しますので第 16 回幹事會に於きまして，今後は分科會を作つて進めて行かうといふことになつたのであります。 その分科會を作つてどういふ風に進んで行つたかといふことに付ては，是この刷物に書いてあるのでありますが，是だけでは未だ分り難き點もありますから其の點をお話申上げたいと思ひます。

先に選定されました言葉に就て分科會原案といふものを作られたのであります。 即ち各部門毎に分科を設け其の擔當の幹事が相集り夫に相當する獨語，佛語は勿論定義を附して原案を作られたのであります。 鉄道にては 7，

8 人の幹事，河川にては 5 人の幹事が相集り其他各部門にても夫れ夫れ幹事分科會原案なるものを作つたのであります。それを幹事會へ提出して幹事會で御相談するやうにしたのでありますが先程申しましたやうに，此の時は既に大いに熟練して來ましたので，分科會で原案を作つたものは，幹事會に於ても餘り手を加へなくても宜いやうになつたのであります。之が幹事會の原案であつて之に依り委員諸君の意見を尋ねたのであります。委員諸君は熱心にお調べ下さつて，それ等の定義，或は英獨佛の言葉に就て相當多くの意見を本會の方へお申出になつたのであります。その委員諸君から出ました意見を，又更に幹事分科會で調べたのであります。さうして幹事分科會では，その意見に就て一々調査相談し委員の意見を斟酌と言ひますか，出來るだけ容れまして，又更に案を作られたのであります。それを吾々は幹事分科會修正案と稱して居ります。それを更に幹事會に於て調査決定し其を今度は會誌に發表して，會員諸君の意見を伺つたのであります。會員諸君は初めは御意見を出されたのでありますが，しまひには會員諸君からは意見が出なくなつたのであります。その會員の御意見のありましたものを，更に分科會で調べたのであります。之を吾々は幹事分科會決定案と申して居ります。此の分科會決定案を幹事會にて調査，決定したものが大体決定用語であります。さうして丁度先月の 26 日に委員全体の會合を得まして，最後の幹事會に於て決まりましたものに付て御承認を得たのであります。今折角それが印刷中であります。

それで今用語調査會々務進行方法を簡單に言ひますと，先づ用語を選定し此に定義を附す (1) 幹事分科會原案，(2) 幹事會原案，(3) 委員意見，(4) 幹事分科會修正案，(5) 幹事會案，(6) 會員意見，(7) 幹事分科會決定案，(8) 幹事會決定案，(9) 委員會決定。斯ふいふ順序を經て愈々用語が決定した次第であります。

大体以上述べた樣な次第でありますが，尙特に一言申上げたいのは，8 箇年の間役員及委員幹事諸君が非常な御努力の結果成つたものでありますが，未だ尙十分なるものとは考へて居りません。今後增加すべき言葉もありますし，又修正すべきところも澤山あらうと思ひます。愈々之が出版になりました節は，よく御覽下さいまして御叱正がありますれば，喜んで訂正する積りであります。先程申しました通りに，話は極めて水或は空氣のやうな味も香もないものでありまして，甚だ恐縮致しましたが，たゞ此の用語集は先程申しました通り英語，獨語或は佛語の 3 箇國語何れからでも其意味定義が引出される樣になつて居りますから學生諸君等が土木工学を学習される際には，相當役立つのではないかと思ふのであります。どうか出來るだけ之を御利用なされるやうにお願ひしたいのであります。甚だつまらぬことを長々と申上げて御淸聽を煩はした事を御禮申します。(拍手)。